

稲村城跡
周辺地域の
歴史と伝承

北条

国道128号線

JR内房線

鎌田淵 27

箱橋

滝川

看板
稲村城跡

そば屋

三芳

石材店

種苗店

パチンコ店

鴨川

バス停 稲村

西門

バス停 城山下

堀之内

ディスカウントショップ

コンビニ

バス停
九重駅入口

要害

主郭部

堀切 6

五輪様

虎口

土塁 9

堀切 6

堀切 10

横穴墓 12



稲村院

西柵

西柵堂

外郭部 28



玉龍院

貴船神社



尾根道 5

腰曲輪 11

西柵

外郭部 23

正木様 4

城井戸

一ノ坪~十ノ坪 20

水往来 3

水往来 3

愛宕神社 25

城井戸

溜井跡 14

中郭部

横穴墓 12

腰曲輪 11

岩井柵
横穴墓群

沼田 2

一ノ坪~十ノ坪 20



水神森 16

白浜

稲村城跡

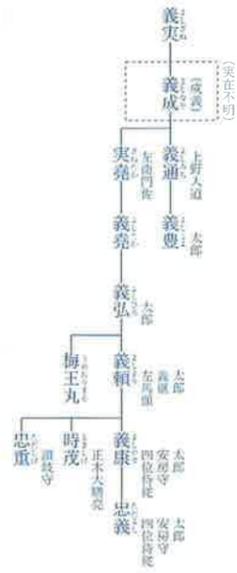
館山市稲

稲村城は、室町時代の15世紀後半から、天文3(1534)年に里見家の内乱によって里見義豊が滅ぼされるまでの、前期里見氏の居城でした。

ここは安房国の府中を見下ろす位置にあり、里見氏による安房支配のための拠点でしたが、内乱を収めた分家の里見義堯が、本城を滝田・宮本方面へ移すと、使用されなくなりました。そのため、戦国前期の城の姿がいまも残された、貴重な遺跡と評価されています。

城の中心部は、東西500m、南北500mの丘陵で、山頂には広い主郭と土塁、3か所の堀切などがあります。北側と西側は急斜面の要害で、東側と南側には複雑に腰曲輪を重ねるなど、数多くの遺構が残されています。

また、北の滝川は堀の役割をもち、東・西・南を廻る丘陵は外郭の役割をはたしていることから、東西約2km、南北約1.5kmにわたる大規模な範囲の城となり、安房国の統治を主眼にした所堅固の城と考えられています。



〔房総里見氏略系図〕
(実在不明)

①五輪様(ごりんさま)

中世の武士の墓や供養のためにつくられた石塔があります。山裾に1組みえますが、頭の高さより少し上にも、いくつかあります。すべて五輪塔で、この場所は五輪様と呼ばれています。「やぐら」だったものが崩れてしまったのでしょうか、今は荒れています。



昭和43年に、ここから鎌倉時代の1319年(元応元年)につくられた板碑(いたび)が出土しています。板碑は館山市の指定文化財になりました。

②城井戸(しろいど)

水往来の東西の登り口近くに、それぞれ下井戸と呼ばれる井戸があります。城の飲料水にしたといわれ、その水を汲んで運んだという水甕が、近くのお宅に残されています。

③水往来(みずおうらい)

城跡を東西に横切るように切り割った道を「みずおれえ」といい、ゲンスケザカ(源助坂)という名もあったそうです。南方の尾根から城の中心部を攻撃してくる敵を一か所に



集中させるための、空堀(からぼり)の役目も持っています。

④正木様(まさきさま)

稲村城跡の周辺には、昔から里見氏の家臣の子孫が住んでいたといわれています。その代表的な家が里見氏の一門だった正木家の子孫で、今も城跡周辺に5軒の正木家があります。その5軒の先祖を祀っているのが、この正木様で、旧暦の2月18日に供養をするそうです。

⑤尾根道(おねみち)

水往来から城跡の中心部へ向かうには、細い尾根を伝ってはいけません。これも自然の地形を活かした城の遺構です。ま



るで土橋のようになっています。

⑥堀切(ほりきり)



山頂の中心部分(主郭部)は、ゆるい斜面から登ってきたり、細尾根から直接入ることができないように、南側と東側に深く幅広い堀を設けて、周囲から独立させています。堀切は3か所あって、もともと東側の堀切には土橋があります。

⑦虎口(こぐち)

ふもとの要害(ようがい)から山頂部まで登る昔からの古道があります。この道が主郭部へ入るところは、柵形(ますがた)のようにカギの手状に曲がっていて、虎口になっています。この形は城跡ならではの遺構で、直角に曲がる場所の正面から敵を迎え撃つことができる、城の入り口の工夫です。小口とも書く。

⑧主郭部(しゅかくぶ)

本丸にあたる城の中心部分です。ここを山頂とする山を城山(しろやま)と呼んでいます。山頂は広く平らなスペースになっていますが、城をつくったときに、狭かった山頂を



崩して西側に土を流し、同じ高さの広場にしたことが、発掘調査でわかりました。ここから国府跡などの平野部を見渡すことができます。

⑨土塁(どるい)

主郭部(しゅかくぶ)の東側には、広場よりさらに高くめぐらされた土塁があります。下から見ると、主郭部の高さが強調されています。土塁の内側には、発掘によって3段のテラスがあることがわかりました。南側の広がったところは櫓台(やぐらだい)と考えられている場所です。土塁の上にある石宮は江戸時代の浅間(せんげん)様で、坂道の途中にある鳥居も浅間様のものです。

⑩垂直切岸(すいちよくきりぎし)

小さな谷の一番奥を垂直に削り落として、主郭へ取り付けないようにしています。里見氏の城跡に特徴的にみられる城の遺構で、垂直切岸と呼んでいます。

⑪腰曲輪(こしぐるわ)

城山の斜面にはいたる所に、段々になった狭い平場があります。これは腰曲輪といって、中世の城につくられた基本施設です。敵には斜面が登りにくく、守りは待ち受けやすくなっています。

⑫横穴墓(おうけつぼ)

里見氏が城として使うよりずっと昔、古墳時代の墓が、主郭部の南側堀切の下に2つあります。室町時代には「やぐら」として再利用されたことも考えられます。

⑬中郭部(ちゅうかくぶ)

水往来の南側には4つの尾根が並び、その西側には南北に延びる長い丘陵があります。それぞれにはたくさんの腰曲輪があり、尾根が集まってくる水往来周辺には広い曲輪(くるわ)があって、城のなかでも主郭部につぐ重要な場所だったと考えられています。東から2番目の尾根には、城山の南側へ下りる古道があり、途中には土橋状の遺構が2か所あります。尾根の付け根には土塁状に削りだした場所も見られます。

⑭溜井跡(ためいあと)

城跡の中には、水を溜めておいたと考えられる凹地があります。溜井の跡で、2か所確認されています。

⑮岩井柵横穴墓群(いわいさくおうけつぼぐん)



中郭部西側の尾根から南へ下りる古道があります。その途中には2段のテラス状の腰曲輪があり、古墳時代の横穴墓がまとまって16か所つくられています。これも「やぐら」に再利用されたかもしれません。

⑯水神森(すいじんのもり)



里見義堯(よしとよ)の攻勢に、城を逃れた里見義豊(よしとよ)が力尽きて自害したという伝説があります。そして家臣の鎌田孫六が、義豊の首をこの場所に埋めたと伝承されています。今も水田の一角を田んぼに耕さない場所があり、エノキの木がポツンと立って、水神森と呼ばれています。

⑰貴船神社(きぶねじんじや)

城山の西裾にある貴船神社は、闇竈神(くらおかみのかみ)・高竈神(たかおかみのかみ)が祭神で、むかしは貴船大明神と呼ばれていました。水に関係する神で、滝川を利用した稲村城の水運と関係するのかもしれないと考えられています。また社殿の敷石に、中世の武士の墓石だった宝篋印塔(ほうきょういんとう)の一部が使用されています。

⑱稲村院(とうそんいん)

滝響山稲村院(たきひびやまいなむらぢいん)といって、もとは浄土宗のお寺でした。義豊の時代だった1528年(享禄元年)頃から江戸時代はじめまでは、寺が断絶していたと伝えられています。墓地の墓石の中には、中世の宝篋印塔の一部が使ったのがみられます。

⑲玉龍院(ぎょくりゅういん)

瑠璃光山玉龍院(るりくわんやまりゅういん)という臨済宗のお寺で、薬師如来が本尊です。里見義豊が創建したとされ、八代目の義頼(よしより)がこの薬師に祈願して、眼病を治したと伝えられています。

⑳一ノ坪～十ノ坪(いちのつぼ～じゅうのつぼ)

これは大字稲にある小字(こあざ)で、城山の東から南にかけての水田になっている所です。古代の条里制度が行われていた水田に付けられるタイプの地名です。稲村城があった頃にも、外郭部(がいかくぶ)の内側の水田として、城を維持するための重要な良田だったようです。

㉑沼田(ぬまた)

城の南側の水田の地名で、むかしは沼のような田んぼだったのでしょうか。南の谷の奥には蓮田もつくられていました。城のまわりの沼田は、城を防御するための施設でした。

㉒要害(ようがい)

戦国時代の城跡周辺によくある呼び名で、地名や屋号になっていることがあります。稲村城跡にも「要害」を屋号にするお宅があります。軍事的な要所で、険しい場所であることを意味することばです。

㉓西門(にしもん)

要害の北側にある呼び名で、稲村城の城門があったのでしょうか。

㉔堀之内(ほりのうち)

中世の武士の館があった場所を、「堀の内」と呼んでいることがよくあります。城山と滝川にはさまれた国道周辺にも堀之内という地名があります。

㉕西柵(にしざく)

城山の東裾にある地名で、条里水田の西側にある谷(さく)の意味でしょうか。日当たりなどの環境がよくて、城主の館があったのはこの地域ではないかとも考えられています。今も屋敷が集まっているところです。

㉖愛宕神社(あたごじんじや)

鎮守という場所にあります。愛宕様は里見氏の城の近くに多く祀られています。

㉗鎌田淵(かまたぶち)

里見義豊の介錯をした家臣の鎌田孫六は、自刃する力もなく、敵をふたり抱え込んで道連れにして、滝川の澱(よど)みに身を投げたという伝説の地です。その場所を今も鎌田淵と呼ぶそうです。

㉘外郭部(がいかくぶ)

稲村城の範囲は、城山とその南へ続く尾根だけではなくありません。東は九重駅背後の丘陵から、西は滝川集落背後の丘陵まで、城山の東西に南北に延びる丘陵にも、腰曲輪や斜面の削り落とし(切岸)などの城郭の遺構がみられます。この外郭部が、稲村城の中心部を包み込んでいるわけです。